

第1回新ごみ処理施設整備検討委員会の指摘事項とその対応について

委員会の運営について

No.	指摘事項	対応
1	傍聴については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、受付でワクチン2回接種証明や体調の確認を行ってほしい。	傍聴受付での検温や消毒、体調確認などを行い、感染予防の徹底を図ります。また、ワクチン接種証明書の確認については、今後の感染状況や他市町村の導入状況に応じて検討していきます。
2	定員は5名だが、広い会場であれば定員を適宜増加してほしい。	会場の収容人員等に応じて、定員を増やします。

処理方式について

No.	指摘事項	対応
1	70t/日の小規模で発電付きの焼却単独(ストーカ方式、2炉構成)の採用事例を調査してほしい。	平成22年度以降の発注においては4件の採用事例があり、うち2件は施工済、残り2件は建設中です。参考資料で説明します。
2	焼却+メタン発酵方式の場合、十分な排水処理を行うとしても放流するのであれば、漁業に悪影響を及ぼしかねない。他事例の立地場所や放流状況等の詳細な情報について調査してほしい。	当方式は6件の採用事例があり、立地場所は4件が河川付近、2件が海付近です。排水状況は2件が施設外へ放流しないクローズド方式、4件が公共下水道へ放流しています。参考資料で説明します。
3	焼却+メタン発酵方式だと焼却施設が1炉構成となっているので、故障等で稼働停止となった際の対応方法を教えてほしい。	通常の補修点検、維持管理等の短期稼働停止の場合に備えて、ごみを貯留するためのごみピット容量を確保しています。しかし、重故障等で長期の稼働停止を強いられた際は、ごみの貯留容量を上回ることが想定され、その場合は外部への委託処理が必要となります。
4	施設の建設費・維持管理費、メリット・デメリットに係る資料を可能な範囲で提供してほしい。	資料2「処理方式について」のP4,P5「表1処理方式の特徴」に示しました。
5	評価項目には排水に係る環境の項目を追加してほしい。	資料2「処理方式について」のP3「表1処理方式の特徴」に追加しました。

事業方式について

No.	指摘事項	対応
1	事業方式を検討する上での判断材料として、各方式の事業スキーム、特別目的会社(SPC)と組合との関係性などを示したわかりやすい資料を一般例で提示してほしい。	資料3「事業方式について」のP7「事業スキーム他事例」に霞台厚生施設組合、水戸市、江戸崎地方衛生土木組合の事例を示しました。
2	焼却灰の搬出・運搬、資源物売却などの事業範囲の例を提示してほしい。	資料3「事業方式について」のP2「表1 事業者の業務範囲(案)」及びP3「表2 業務内で発生する費用の帰属先」に示しました。